

# 杉村病院が担う役割について

令和 5年 12月 杉村病院

# 1 現状と課題 自施設の現状と課題

## 理念

- ・ 地域の人々の健康を守り 地域の人々から愛され
- ・ 社会に貢献できる病院を目指します

## 基本方針

- ・ 1. 心のこもった適正な医療サービスを提供します
- ・ 2. 十分な説明をし、同意を得るための努力を惜しみません
- ・ 3. 患者さまのプライバシーを守り、個人の尊厳が保たれるように努力します
- ・ 4. 患者さまを看させて戴く事に感謝の心を忘れません
- ・ 5. 高齢者の様々なニーズに細やかに対応します

# 1 現状と課題 自施設の現状と課題

## ビジョン・ミッション

**心臓から脳へ“全身血管病”のトータルケアを目指して**

心血管疾患と脳卒中・神経疾患の専門病院として、“さらに、もっと”質の高い医療を提供します。

心血管疾患 > 脳卒中・神経疾患 >

リハビリ > 糖尿病代謝・内分泌内科 >

### 全身血管病への対応

心臓血管、脳血管、末梢血管及び糖尿病疾患の専門医が連携し、全身血管病に対応（検査、診断、治療）

### 予防医学の推進

熊本大学病院をはじめとした基幹病院と連携し幅広い疾患に対応、また人間ドックの推進

### テーラーメイドの医療

連携医療機関等からの紹介や患者ニーズに即した小回りの利くテーラーメイドの医療を提供することで、特色ある病院として地域医療に貢献

### 一貫性のある医療

急性期から回復期、介護まで、病院と杉村会グループの高齢者関連施設をつなげた一貫性のある医療の実現

# 1 現状と課題 自施設の現状と課題

## 開院

1956年06月 杉村医院開設（19床）

## 診療科

循環器内科 脳神経内科 内科 代謝内科  
糖尿病代謝・内分泌内科 消化器内科  
呼吸器内科 脳神経外科 整形外科  
外科 消化器外科 リハビリテーション科

## 主な指定

救急告示病院（二次救急医療機関）  
脳卒中急性期拠点医療機関  
一次脳卒中センター  
急性心筋梗塞急性期拠点病院  
急性心筋梗塞回復期医療機関  
脳卒中回復期医療機関

## 職員数（常勤換算）

医師	12名	看護要員	138.6名
コメディカル		124.1名	その他 37名

# 1 現状と課題 自施設の現状と課題

## 病床数

177床	ハイケアユニット入院管理料1	8床
	脳卒中ケアユニット入院管理料	6床
	急性期一般入院料4	79床
	回復期リハ入院料1	84床

## 施設の特徴

4 機能のうち 回復期と急性期中心

## 担う政策医療

5 疾病・・・脳卒中 心筋梗塞等の心血管疾患 糖尿病  
5 事業・・・救急医療

# 1 現状と課題 診療実績

## 1日平均外来患者数



## 1日平均入院患者延数



## 平均病床稼働率・平均病床利用率



## 平均在院日数

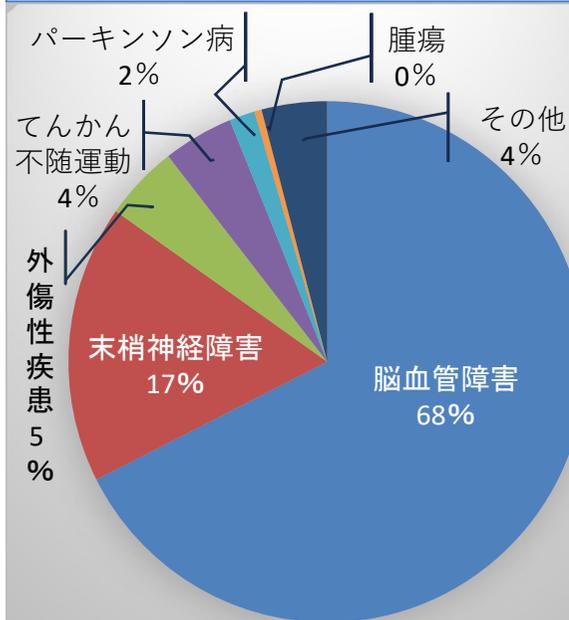


# 1 現状と課題 政策医療における当院の役割と実績

## 脳卒中

- 特徴：
- ・ 脳卒中急性期拠点医療機関 一次脳卒中センター 脳卒中回復期医療機関
  - ・ t-PA治療、カテーテル治療が24時間365日対応可能
  - ・ 脳卒中ケアユニット（6床）を熊本赤十字病院、熊本大学病院に次ぐ3例目として設置、軽症～重症症例への対応可能
  - ・ 回復期リハ病棟へのスムーズでシームレスなパスと急変時の迅速対応

### 脳神経疾患入院数



### 脳カテーテル数



### 脳神経疾患救急搬送数

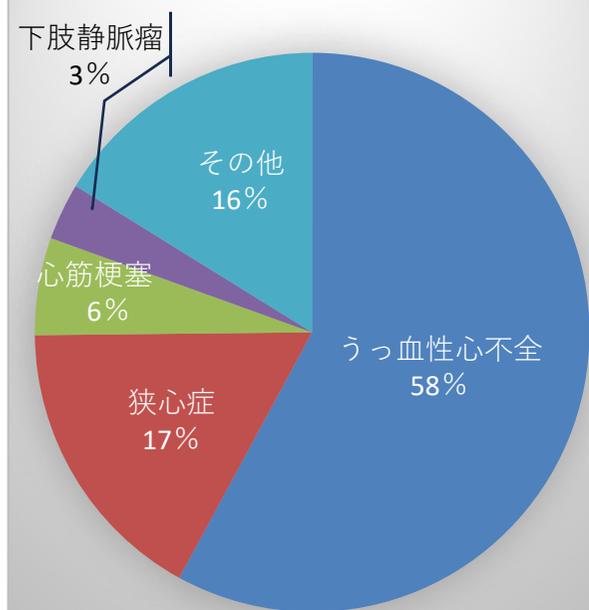


# 1 現状と課題 政策医療における当院の役割と実績

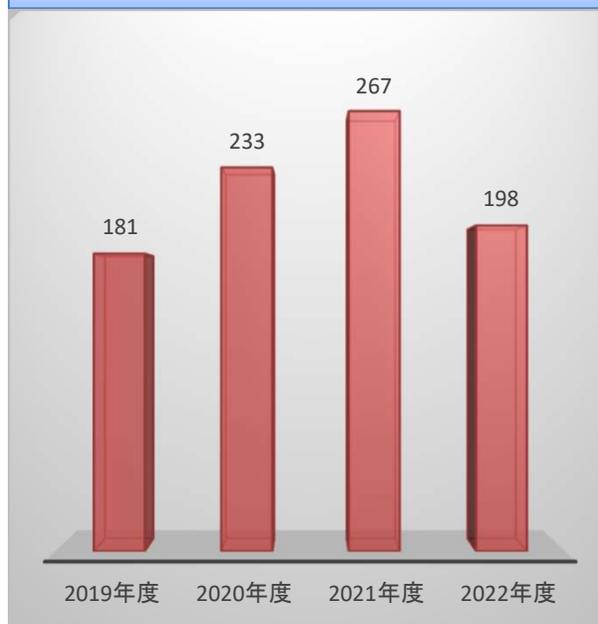
## 心筋梗塞等の心血管疾患

- 特徴：
- ・急性心筋梗塞急性期拠点病院 急性心筋梗塞回復期医療機関
  - ・カテーテル治療が24時間365日対応可能
  - ・循環器専門医3名、HCU（8床）を有し、重症症例にも対応可能

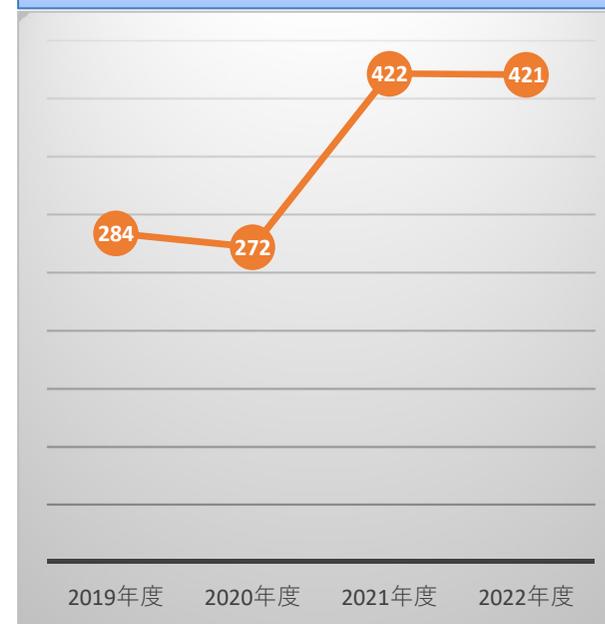
### 心疾患入院数



### 心カテーテル数



### 心疾患救急搬送数



# 1 現状と課題 政策医療における当院の役割と実績

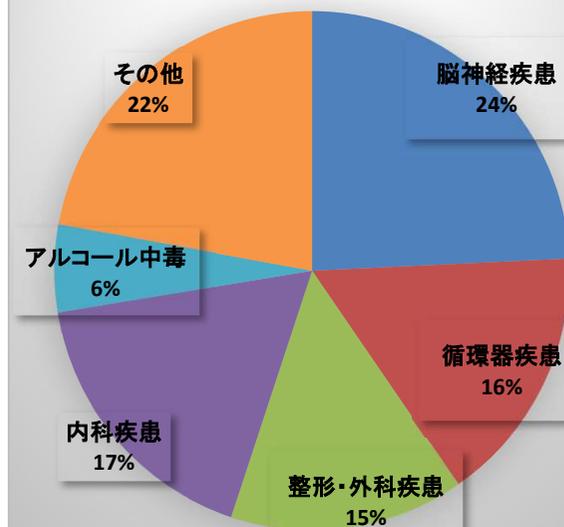
## 救急

- 特徴：
- ・ 二次救急医療機関
  - ・ 夜間・休日の救急受入を一般内科・循環器内科・脳神経内科/脳神経外科の3名体制で対応
  - ・ 救急救命士の配置でスムーズな受入体制を整備

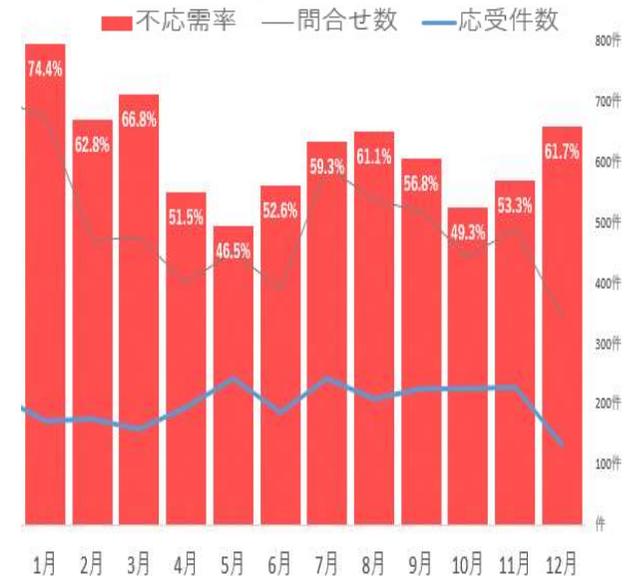
救急搬送数



疾患別割合



救急搬送不応需率



# 1 現状と課題 課題

## □二次救急医療機関としての役割と病病連携の強化

- ・ 消防からの救急搬送コール増加に対し、受入可能が約半分
- ・ お断りせざるを得ない理由の多くが病床満床
- ・ 転院を受入れて頂けるなど患者さんのやりとりを積極的に行える地域の医療機関との連携を強化する必要がある

## □働き方改革のためのタスクシフトとDXの推進

- ・ 働き方改革を進めながらこれまで以上に質の高い医療提供体制を確保するためには、タスクシフトとDXの推進が必須
- ・ 1 医療機関だけでの実現は厳しく、行政などのサポートが不可欠

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- 脳卒中急性期拠点医療機関、一次脳卒中センター、急性心筋梗塞急性期拠点病院として、今後も引き続き高い専門性をもって政策医療の役割を担えるよう、脳卒中・心血管疾患の24時間365日救急体制の継続
- 二次救急医療機関として、救急搬送の積極的な受入拡充
- 高度急性期治療後の継続的治療、回復期リハビリの積極的な受入など病病連携、病診連携の推進
- 地域の「かかりつけ医」として、糖尿病代謝・内分泌内科など生活習慣病への対応もさらに充実

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	8床	8床	
急性期	48床	48床	
回復期	121床	121床	
慢性期			
その他			
合計	177床	177床	

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

病床機能や病床数に変更予定なし

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	循環器内科 脳神経内科 内科 代謝内科 糖尿病代謝 ・内分泌内科 消化器内科 呼吸器内科 脳神経外科 整形外科 外科 消化器外科 リハビリテーション科	現在の診療科を維持	
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2023年 11月時点)	2025年
①病床稼働率	病床稼働率 102.8% 病床利用率 99.5%	現状維持
②紹介率	15%	増加
③逆紹介率	5%	増加

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

- ・ コロナ禍においても病床稼働率は下がることなく推移
  - ・ 今後もベッドコントロールをしっかりと行い、高稼働率維持に努めていく
  
- ・ 常勤医師の時間外労働は、A水準内で収まる見込み
  - ・ 夜間当直、日直を熊本大学各医局からの派遣を中心とした非常勤医師の場合も多く、9月に宿日直許可を取得
  - ・ 今年度は県勤改センターのサポートを受けながら、タスクシフトを推進することで、職員の負担軽減・業務効率化等を図っており、今後はDXも含めて継続する

## 4 その他特記事項

特になし